

各位

全4ページ
登録速報(2019-211)
2019年 9月11日
クミアイ化学工業株式会社
企画普及部普及課

登録速報

下記の通り適用拡大登録となりましたので、ご連絡します。

適用拡大登録年月日：2019年 9月11日

記

1. 農薬の登録番号及び名称

登録番号：第14298号

名称：サターンバアロ粒剤

2. 変更の内容

農薬登録申請書第7項中、以下を変更し、別紙1【変更後】のとおりとする。

- ①作物名「直播水稻」の適用雑草名「水田一年生雑草及びマツハヅイ」を「一年生雑草及びマツハヅイ」に変更する。
- ②作物名「直播水稻」の使用時期「は種直後～稲出芽前(ヒエ発生始期まで)但し、収穫90日前まで(入水15日前まで)」を「は種直後～稲出芽前(ヒエ発生始期まで)(入水15日前まで)」に変更する。
- ③作物名「直播水稻」のプロメトリンを含む農薬の総使用回数「2回以内」を「1回」に変更する。
- ④作物名「小麦、大麦、だいず、らっかせい」の使用時期「は種後～発芽前(雑草発生前)」を「は種後～出芽前(雑草発生前)」に変更する。
- ⑤適用土壌および適用地帯を削除する。
作物名「小麦」の使用時期「は種後～出芽前(雑草発生前)」の使用量を「3～6kg/10a」に、
使用時期「生育初期(小麦の4葉期まで、スズメタネホウ1.5葉期まで)」の使用量を「3～5kg/10a」
に変更する。
作物名「大麦」の使用量を「3～5kg/10a」に変更する。

3. 当該変更に伴い、農薬登録申請書の記載事項に変更を生ずるときは、その旨及び内容

農薬登録申請書第8項中、以下を変更し、別紙2【変更後】のとおりとする。

- ①「生ずる」を「生じる」に、「避ける」を「さける」に、「恐れ」を「おそれ」に、「とくに」

を「特に」に変更する。

②4)、5)、8) ③を変更する。

【変更前】

- 4) 麦類に使用する場合は、種深度が浅い場合、土壌が過湿の場合、又は砂質土の場合は薬害を生ずるおそれがあるので使用はさけること。
- 5) つつじ、つばきに使用する場合はなるべく作物にかからないように注意して散布すること。
- 8) ③西南暖地の乾田直播水稻に使用する場合は薬害を生ずるおそれがあるので砂壤土での使用はさけ、壤土～埴土で使用する事。

【変更後】

- 4) 小麦および大麦に使用する場合は下記に注意すること。
 - ①は種深度が浅い場合、土壌が過湿の場合、又は砂質土の場合は薬害を生じるおそれがあるので使用はさけること。
 - ②薬害を生じるおそれがあるので砂壤土で使用する場合は下限薬量で使用する事。
- 5) つつじ類、つばき類に使用する場合はなるべく作物にかからないように注意して散布すること。
- 8) ③乾田直播水稻に使用する場合は、高温条件では薬害を生じるおそれがあるので砂壤土での使用はさけ、壤土～埴土で使用する事。

別紙 1

【変更後】

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	プロメリンを含む農薬の総使用回数	ベンチカーブを含む農薬の総使用回数	
直播水稻	一年生雑草 及び マツバイ	は種直後～ 稲出芽前 (ノビエ発生始期まで) (入水 15 日前まで)	4～6kg /10a	1 回	乾田・落水状態で 全面土壌 散布	1 回	2 回以内 (入水前は 1 回以内、 入水後は 1 回以内)	
小麦	一年生雑草	は種後～出芽前 (雑草発生前)	3～6kg /10a		2 回以内	全面土壌 散布	1 回	1 回
		生育初期 (小麦の4葉期まで、 ス ^レ メテポ ^ウ 1.5葉期 まで)						
大麦		は種後～出芽前 (雑草発生前)	3～5kg /10a		1 回			
		生育初期 (大麦の4葉期まで、 ス ^レ メテポ ^ウ 1.5葉期 まで)						
とうもろこし		は種直後	4～6kg /10a		2 回以内			
だいず		は種後～出芽前 (雑草発生前)						
らっかせい		は種直後 (雑草発生前)						
にんじん		定植直後 (雑草発生始期ま で)						
たまねぎ			4～6kg /10a		3 回 以内			
ねぎ		植付後 (雑草発生前)						
つつじ類 つばき類			5～6kg /10a		2 回 以内			
桑		春期発芽前 又は夏切後 (雑草発生前)						

別紙2

【変更後】

- 1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 2) は種後覆土はなるべく細かく砕いた土を用いてていねいに行い、十分覆土して軽く鎮圧すること。
- 3) 作物の出芽時の散布は薬害を生じるおそれがあるのでさけること。
- 4) 小麦および大麦に使用する場合は下記に注意すること。
 - ①は種深度が浅い場合、土壌が過湿の場合、又は砂質土の場合は薬害を生じるおそれがあるので使用はさけること。
 - ②薬害を生じるおそれがあるので砂壤土で使用する場合は下限薬量で使用する事。
- 5) つつじ類、つばき類に使用する場合はなるべく作物にかからないように注意して散布すること。
- 6) 土壌が極端に乾燥していると効果が劣るのであらかじめ散水するなど土壌に適度なしめりを持たせて散布すること。
- 7) イネ科雑草に比べ広葉雑草には効果が不十分な場合があるので、広葉一年生雑草の優占する圃場では所定範囲内の多めの薬量で使用する事。なお、タカサブロウに対する効果は期待できないので留意すること。
- 8) 直播水稻に使用する場合は下記に注意すること。
 - ①稲の根が露出した条件では薬害を生じるおそれがあるので使用をさけること。
 - ②落水後全面土壌散布の場合は落水を完全に行った後散布すること。また、出芽直前に散布し帯水する場合は薬害の危険性があるので、降雨が予想される場合には、播種後早い時期に散布すること。
 - ③乾田直播水稻に使用する場合は、高温条件では薬害を生じるおそれがあるので砂壤土での使用はさけ、壤土～埴土で使用する事。
 - ④稲出芽前に入水を行うと薬害を生じるおそれがあるので、出芽前に入水はさけること。
- 9) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

以上